

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397200078		
法人名	社会福祉法人貞徳会		
事業所名	ガーデンホーム赤目(東ユニット)		
所在地	愛知県愛西市赤目町80		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osvoCd=2397200078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、外出する機会が少なかった為、施設内の活動に力を入れた。手芸、書道、絵画、回想法園芸等の活動又、一人ひとりの趣味の時間も大切にしており、編み物をされたり、植物のお世話したりとそれぞれ活動的に過ごされている。共同生活の中で、役割を強制することなく、やる気ができるような、自ら喜んで手伝って頂けるような声掛けに努め、季節に合った行事や作品作りを通し、入居者もスタッフも楽しみながら生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念については、出退勤時、事業所内、ipad内に掲示しており、職員一人一人が、理念に基づいてケアを実践できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度は、慰問や日常の買い物を制限していた為、地域との交流の場を持つことは難しかったが、野菜のおすそ分けを頂いたり、散歩の機会に挨拶するなど近隣住民の方々との繋がりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所側から、ケアの拠点として地域の方々へ進んで発信することは殆どないが、相談があれば、利用可能な介護保険サービス、事業所の紹介などの対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通常の運営推進会議は実施できなかったが、会議参加者には、取り組み内容、サービス実施状況について書面で送付し、評価を頂くよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村へ訪問する機会に、相談事項があれば直接担当者に意見を求めている。日頃から良好な関係が築けるような関わりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本部と合同で定期的に研修や委員会を開催しており、拘束となる行為を理解するよう努めている。フロアスタッフと何度も話し合いの場を設け、入居者様に対し、理解を深め寄り添うケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待を見逃さないよう定期的に無記名で調査を行っている。身体的な虐待のみならず、心理的虐待など、不適切なケアがなされていないか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、単身での入居事案がないため、成年後見制度を活用していない。入居者様の権利を守るために、学び、理解する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が窓口となり、利用料や契約内容について、家族が納得できるよう説明を行っている。疑問や不安があれば、その都度解消し、理解を得るよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に意見箱が設定されており、それ以外にも外部に相談窓口があることを伝え、家族が意見、苦情を表せる場があることを伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営について、管理者は職員が自ら考え行動できるような雰囲気作りを行い、個別に意見を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。評価制度の導入に伴い、各自が就業規則を意識して勤務にあたる事ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度は、事業所内・外の研修は殆ど実施されていないが、WEBや書面での研修を行っている。研修内容は全職員回覧し、情報が共有されるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3、4ヶ月に1度、近隣の同業者が集まり、運営状況の報告など、意見交換を図る場が設けられている。親睦を深めながら、様々な視点から意見や助言が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面接のみならず、入所後は更にコミュニケーションを図り、本人様の気持ちに寄り添い、不安な気持ちや今何を求めているのかを理解し安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の説明時、家族様不安な気持ちを取り除き、要望を聞き出すよう努めている。家族様が、求めているニーズに対して必要なサービスが提案できるよう耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様、家族様それぞれのニーズに対してより良い方法を考え、事業所としてできることを職員全体で情報共有して、必要とする支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様一人一人に役割、得意分野があり、職員と共に支え合いながら共同生活を送っている。支援されるのみの立場におかず、お互い助け合って生活できるような関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度、家族様にはお便りを送り近況報告している。家族様の思いも汲み取り、お互い気軽に相談できるような良好な関係を築くことができるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度は、知人、友人が自由に施設へ出入りすることは困難であったが、電話や手紙など通じて馴染みの関係を継続できるよう支援していきたいと考えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を把握し、家事やレク活動など、それぞれの役割を持って交流することで、お互いが声を掛け合い、孤立することがなく支え合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要となった場合、転居のダメージを最小限にするための周辺情報、具体的なケア内容等、転居先へ伝え、継続的にフォローできるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員に対し、言葉にしづらい思いを伝えられることができるようなアプローチに努めている。表情、仕草、生活歴などから思いを汲み取り、日々のコミュニケーションから良好な関係作りに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様だけでなく、親族から生活歴やライフスタイルを把握するよう努めている。その情報を元に入所後も馴染みの生活が送れるよう援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ipadを活用して、1日の流れを途切れることなく観察することができる。それを元に睡眠パターン、排泄パターン等把握し、生活リズムを整えることができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者主体の生活が提供できるよう、3ヶ月に1度モニタリングを実施し、6ヶ月に1度、介護計画を作成している。状態の変化に応じて、現状に即した内容をプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録、ケア経過記録を分けて記載することで、一人一人の生活状況、介護計画の実施状況が把握でき、情報共有、介護計画の見直しに活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	身体状況の変化など、その人に応じたサービスが提供できるよう考慮している。同法人内の様々な介護保険サービスの中から、その人に合ったサービスが提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年度は社会資源を活用して地域住民と関わる場を持つことができなかった。消防との連携を図ることで災害時、迅速に入居者様の安全を確保することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までのかかりつけ医への通院を継続するのか、嘱託医へ受診するか家族へ意向確認を行っている。臨時の通院に関しては、家族へ連絡し、受診内容、結果を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は常駐していないが、状態に変化があれば、同法人の看護師と連携を図り、適切な処置、受診の指示を仰ぐことができる。迅速に医療と連携を図り対応することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、本人、家族が安心して治療を受けられるよう努めている。退院後の生活についても、本人がスムーズに移行できるよう医療機関、家族と話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期について、最期は住み慣れた場所で迎えたいと望む家族が多いため、可能な限り事業所内で支援している。困難な場合は、早期に家族と話し合いを行い、今後の意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時、対応マニュアルがあり、職員全員がそれに沿って、確実、適切な行動がとれる体制を整えている。看護師より簡単な処置の指導を受け、現場の職員は実践力を身につけることができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っている。時間、場所等様々な想定で行っている。避難経路や火災通報装置の使用方法など全職員が把握できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者として敬意を払い、尊厳を無視した対応とならないよう配慮している。特にトイレ誘導時は、羞恥心に配慮し、さりげない言葉掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思決定が困難な方に対しては、表情や反応を注意深く読み解き、できる限り、自分で決定できるよう配慮している。入居者様が選択しやすい声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の基本となる日課はあるが、本人の体調や希望に合わせ、職員都合を優先せず、個々のペースに沿った支援を提供できるよう柔軟に変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床後は、髭剃り、整髪の声掛け、援助を行い、日中は食べこぼしや口の周りに汚れがないか配慮している。行事など、特別な日には、化粧やマニキュアをして、おしゃれを楽しむ機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者一人一人が役割分担し、食事の付け分け、配膳、食器洗い、机拭きなどを行っている。食事が楽しみの一つとなるよう、準備、片付けの際は、食事への関心を引き起こす会話を心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量はPCで管理しており、摂取量の増減など把握することができる。半年に1度、摂取量の平均値やBMIを算定し、個々に応じた提供量を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛け、援助を行っている。個々に応じた物品を使用し、義歯の管理が困難な方には、援助にて確実にできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄間隔を把握するため、記録を残している。パターンを把握することで、失禁を減らし自立支援を促している。尿量、使用時間に応じてパッドの種類を検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼らず排泄を促すよう乳飲料や食物繊維を提供している。下剤服用時は、本人の身体の負担とならないよう、量や服用時間を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人一人の希望の時間帯を把握し、希望に沿って入浴できるよう配慮している。拒否された場合は、無理強いせず、他職員で対応したり、日にちを変更するなど工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居前の生活習慣に応じて、居室に畳を敷いて対応している。生活のリズムが整うよう日中は活動的に過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方内容が変更になったり、量の増減があった際は、全職員が情報共有できるよう日報にて引き継ぎを行っている。薬の変更による状態の変化を見逃がさないよう注意し、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	年齢や性別によっても求められるものが違うため、個別の楽しみや役割が持てるよう配慮している。一人一人の役割や楽しみ、嗜好品を把握して、気分転換ができる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度は、外出の機会を設けることができなかった。施設内で過ごす時間が多くなったため、施設内(テラス)での体操や園芸クラブ、周囲の散歩を積極的に行い、戸外に出る機会を作った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様が金銭を所持することに制限はしていない。お金を持つ安心感や満足感に配慮して、本人や家族と相談しながら金銭管理の支援に取り組んでいきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や知人からの電話はプライバシーに配慮して取り次いでいる。今年度よりweb面会を行っており、予約をすればいつでも顔を見ながら会話することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅の延長として居心地良く過ごせるような環境整備を行っている。季節感のある飾りつけを取り入れ、施設っぽさ、幼稚な装飾はせず、家庭的な雰囲気大切にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファを設置し、少人数で過ごせる空間を作っている。テラスにもテーブルと椅子があり、数人でお茶をしたり、談笑するなど思い思い過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活歴に応じて、居室内に畳を敷いたり、テレビや家族の写真、植物を置いて落ち着いて過ごせるよう配慮している。本人が安らぎを得られる様、家族への協力、理解を求めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の身体機能、状態に合わせ居室内への配置を変えている。危険防止のためと行動を抑制せず、入居者様が自分の力を活かして意欲的に活動できるよう環境整備を行っている。		